

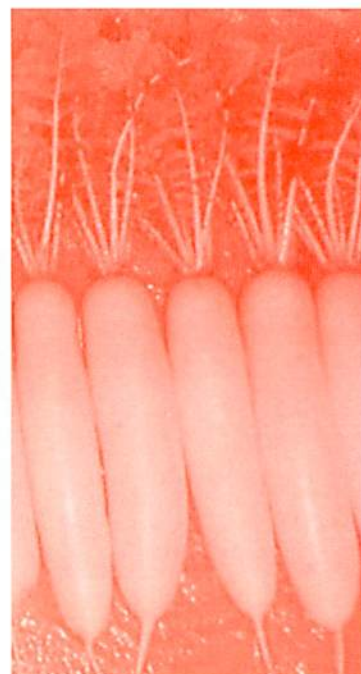
硝酸含量の低いダイコンづくり

三浦半島地区事務所



ダイコン栽培の様子

硝酸は植物の生育に必要な栄養ですが、食用部分への過剰な蓄積は品質上好ましいとは言えません。また、野菜への過剰蓄積は過剰施肥が原因の一つと考えられるため、適正施肥や減肥で植物体中の硝酸濃度を適正に保つことは環境負荷低減や、産地のイメージ向上につながります。そこでダイコンの可食部硝酸濃度に及ぼす減肥の効果を試験しました。



収穫したダイコン

<化学肥料の削減がダイコン収量及び品質に及ぼす影響>

窒素施用量を基肥に6 kg/10 a、追肥には1回あたり4 kg/10 aとし、追肥の回数を1～3回に設定することにより、総窒素施用量を10、14、18kg/10 aの3段階設定し、ダイコンを栽培しました。品種は「冬の浦」を用い、9月24日播種、1月24日収穫しました。

このときのダイコン収量を図1に示します。窒素施用量を10kgにまで減じても、14kg区及び18kg区とはほぼ同等の収量が得られました。ダイコン可食部硝酸濃度は、図2に示すように窒素施用量に連動した変化を示し、窒素施用量が少ないほど、可食部硝酸濃度は低く推移しました。減肥栽培は硝酸濃度の低いダイコンづくりに効果的であるという試験結果が得られました。

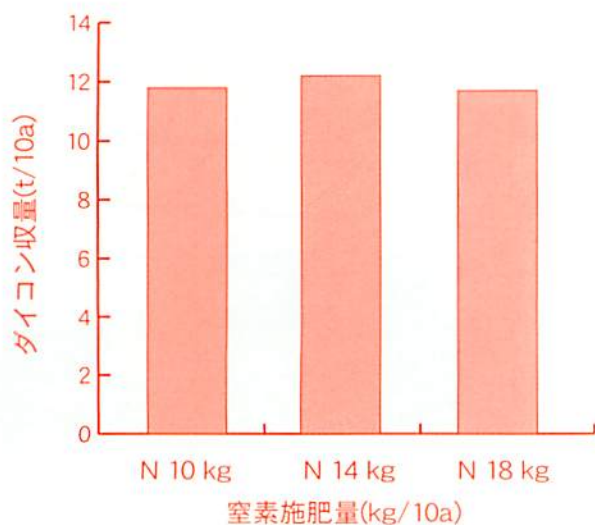


図1 ダイコンの窒素施用量と収量

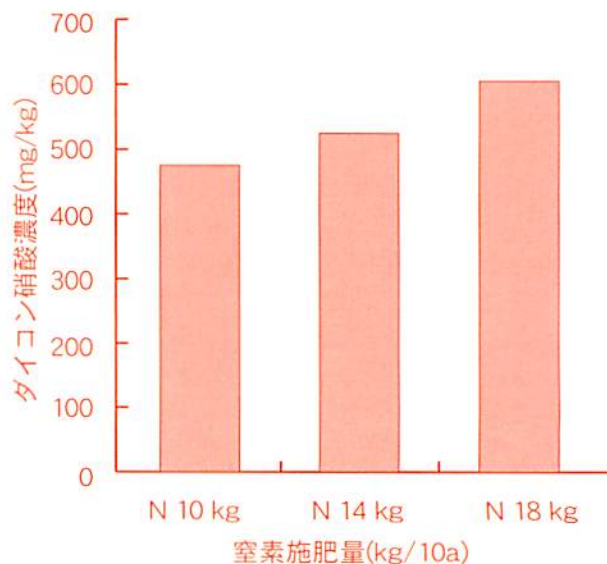


図2 ダイコンの窒素施用量と根部硝酸濃度